

平成22年度 経営の概要

プロローグ

正月の風物詩、箱根駅伝をTV観戦していたら、アナウンサーが、白い息を吐きながら箱根の山を下る選手を見て解説の瀬古利彦氏に「選手達は寒くないのでしょうか」と質問していました。瀬古氏曰く「もちろん寒いですが、でも、選手達は『そういうものだ』と思っていますから」と答えていました。

「早く読まない大人になっちゃうよ」、これは昨年度、我が校の読書のすゝめキャッチコピーです。昨年度の神宮寺小学校は、五色百冊読書チャレンジの取り組みにより、5月から翌年の2月までの10か月間で一人月平均15冊以上本を読んでいます。高学年から低学年になるにつれて読書冊数は多くなり、中には通算で900冊以上本を読んだ子もおります。これは、五色の賞状の準備や100という数字を目標にさせたこともありますが、何より1・2年生に毎日本を持ち帰らせたことが大きく影響していると考えます。いわゆる本は毎日読む「ものだ」という刷り込み、瀬古氏ではありませんが「そういうものだ」効果です。イギリスのブレア首相は「7歳の子どもの読書量が20年後のイギリスの存在価値を決める」と述べていますが、我が校の子ども達の読書に取り組む姿勢は、大変嬉しいことですし、一人一人の将来の成長にとって大きな糧となるに違いありません。

子ども達の生きる力を支える基本的な心の育成に向け、今年度も「そういうものだ」をたくさん身に付けさせたいものです。朝、起きたら家族に「おはようございます」とあいさつすること。名前を呼ばれたら「ハイ!」と元気よく返事すること。席を立つときは、椅子をきちんと入れること。ズックはつぶさないで履くこと…。これらは、考える前に声や形、行為として自然と現れるようになってほしいものです。そして、このような「そういうものだ」の積み重ねが、望ましい集団を形成していくことにつながっていくと考えます。

人の幸福とは、他人から大切にされることです。子どもも、愛されていなければ育ちません。愛されることで自分自身の命を大切に、人様の存在を尊重し、望ましい生活習慣を身に付けることができるようになります。これが「そういうものだ」のベースとなります。子ども達一人一人を、温かく包み励ましながらかセルフエステームを高めることのできる教職員集団であることを目指し、この学校に勤務できる感謝と報恩の心を忘れずに、全職員一丸となって歩んで参ります。

本校は、神宮寺嶽が悠然とそびえ立ち、秋田県少年野球草分けの地、飴売り節の里としても名高い大仙市神岡地域に位置し、今年度で創立136年目を迎えます。

伝統ある「外寛内明」を校是としながら、「あ3人(アスリート) - あいさつ・あんぜん・あい読書」にチャレンジする子どもの育成に努めます。

このことは、学校だけではなく保護者や地域の皆様との連携により、大きな教育効果を生み出します。コミュニティー・スクール推進事業校であった二年間の営みを土台とし、三年目最終年となった学校支援地域本部事業を基盤としながら繁盛する学校を目指し、皆様と手を携え教育活動を進めて参ります。

今年度の経営方針

校是「外寛内明」のもと、今年度の教育目標を次のようにする。

教育目標 一人の笑顔は、みんなの笑顔
～めざせ!あ3人(アスリート)～

あいさつ
あんぜん
あい 読書

アスリート

あ3人(あ3つが備わった人〔子〕に)

セルフエステームを高める

1 こんな学校に(学校像)

子どもの成長を保証する繁盛学校・保護者や地域と共に手を携えながら歩む繁盛学校
明日もまた来たくなる楽しい繁盛学校
先生や友達、地域の方々と共に学ぶ喜びを味わえる繁盛学校
一人一人の活躍する場が保証され、愛情ただよ繁盛学校
学校・社会のきまりやルールをきちんと指導してくれる繁盛学校
地域に根ざし、愛され賑わう繁盛学校

2 こんな子どもに(児童像)

夢を抱いてしなやかに生きる子ども
課題を見つけ、自ら学ぶ子ども
違いを認め合い、優しく心豊かに行動する子ども
遊びや運動が大好きで、リズムある生活ができる子ども
自分を大切にし、自分らしく表現できる子ども
季節を感じ、ふるさとのよさを感じながら校舎や地域に感謝する子ども
ご両親や祖父母、ご先祖様を大切にする子ども

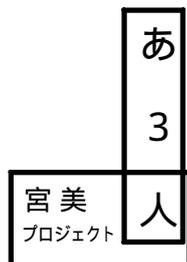
3 こんな教職員に(教職員像)

感謝と報恩の心で生きようとする教職員(澆刺颯爽)
人様に明るく爽やかなあいさつを届けることができる教職員(繁盛学校の根幹)
一人一人の子どもが楽しい経験や思い出をたくさんつくることができ、セルフエステーム(肯定的自己概念)を高めてあげられる教職員(一人一人の活躍する場を保証する教職員)
心身共に健康で子どもへの愛情深い教職員
自分を活かし、他人をも活かすことができる教職員(授業を開く教職員)
専門的な資質をみがくと共に、人間として豊かな生き方を求め続ける教職員
一人一人が学校運営に参画する意識をもった教職員
素直さと感謝の心を忘れず、地域に愛される教職員(時間ボランティアの実践)

今年度の重点施策

【基調】P - D - C - A (計画 - 実践 - 評価 - 改善) を随時行いながら施策を推進する。

1 生きる力をささえる基本的な心の育成に努めながら情緒力を高める



- あいさつ - 「ハイ」という返事や「おはようございます」「おやすみなさい」などのあいさつをきちんとと言える子ども(規律正しい生活)
- あんぜん - 自分自身の健康や安全・命について考え、行動する子ども
- あい 読書 - 読書に進んで親しむことができる子ども(五色百冊読書)
- 百人一首暗唱活動の推進 (五色百人一首)

2 地域に学び、地域と共に歩む学校づくりの推進

地域参画型授業を積極的に取り入れながら、体験活動の充実を図る。また、各種行事の際はお年寄りとのふれあいを大切にされた内容を講ずる。

北神小との連携を図り、統合を見据えた交流を推進する。

PTA、「嶽っこ守るんじゃー」、「地域の先生」との協力支援要請など、連携を深める。

部活動・スポーツ少年団活動への支援と協力を大切にし、子ども達への温かい励ましの言葉掛けを日常的に行う。

3 基礎学力の習得および学習環境と生活のリズムの確立

日常的に学習課題の提示や終末の振り返りの時間を確保し、基礎、基本を確実に身に付けさせる。

読み・書き・計算などのドリル学習を徹底して行う。

TTやコース別学習により、きめ細やかで一人一人の習熟度に合わせた指導を行う。

一人一人が確かに学んだと実感の持てる学習の展開 - 向上的学力の変容

自学自習をめざす家庭学習の実践 10分×学年+

生活に関するアンケートを随時行い、指導に生かす。

スキルアップタイムなどを活用しながら、全校体制で学力の向上に取り組む。

体力の向上と心身の健康について関心を持たせ、望ましい食生活と生活習慣の指導を強化するとともに、意図的に運動のアナログンなどを取り入れた学習を工夫する。また、体育の特性を生かし規律ある行動や規範意識を育てる。

4 特別支援教育の充実といじめの絶無

「いじめは絶対にゆるさない」という強い姿勢で指導に当たる。また、随時いじめアンケートを実施するなどしながら予防に努める。また、休み時間や部活動などの子ども達の行動を把握しながら、問題行動の早期発見に努める。

特別支援学級に在籍している児童と通常学級との交流を推進し、指導体制も柔軟にしながら教育効果を高める。また、コンサルテーション(作戦会議 - 異なった役割や専門性を持つ者同士が子どもの問題状況について検討し、今後の援助のあり方について話し合うプロセス)の視点で専門家や保護者との連携を図り、特別支援教育の円滑な運営をすすめる。